

新型コロナウイルス感染症対策
特別委員会記録

令和3年5月31日

【開催日】 令和3年5月31日

【開催場所】 第1委員会室

【開会・散会時間】 午後1時40分～午後2時20分

【出席委員】

委員長	高松秀樹	副委員長	山田伸幸
委員	伊場勇	委員	水津治
委員	長谷川知司	委員	藤岡修美
委員	松尾数則	委員	宮本政志
委員	吉永美子		

【欠席委員】

なし

【委員外出席議員等】

議長	小野泰	副議長	矢田松夫
----	-----	-----	------

【執行部出席者】

副市長	古川博三		
総務部長	川地論	総務部次長	辻村征宏
総務課長	田尾忠久	総務課課長補佐兼総務係長	奥田孝則
新型コロナ対策室長	河田圭司		
福祉部長	兼本裕子	福祉部次長	岩佐清彦
福祉部次長兼健康増進課長	尾山貴子	健康増進課課長補佐兼健康増進係長	大海弘美
健康増進課主査兼健康管理係長	林善行		

【事務局出席者】

事務局長	尾山邦彦	事務局次長	島津克則
------	------	-------	------

【付議事項】

- 1 新型コロナウイルスワクチン接種について

高松秀樹委員長 ただいまより新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を始めます。本日は新型コロナウイルスワクチン接種についての執行部の報告を求めます。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 新型コロナワクチン接種について、現在、実施しております 65 歳以上の高齢者の進捗状況を中心に説明させていただきます。最初に、今までの経緯の概略ですが、昨年末から粛々と準備を進めてまいりましたが、今年 4 月 15 日に対象となる高齢者 2 万 1,811 人に接種券を発送しております。接種に関しましては、まず 4 月 19 日から先行接種を開始しました。これは、この時期に、県内に分配されるワクチンの供給量が限られることから、対象者を限定して開始したもので、本市では、慢性期を対象とした病床に入院している高齢の入院患者などへ接種を実施しております。そして、4 月 26 日に高齢者接種の予約受付を開始し、5 月 10 日から、まずは市民病院での接種を開始、5 月 17 日から御協力いただける市内全ての医療機関での接種を、そして、5 月 20 日から集団接種を開始しております。接種会場につきましては、資料の 2 ページを御覧ください。これは 4 月 15 日号の広報ですが、下側に記載がありますように、市内公的 3 病院、そして、公的施設ということで集団接種会場としまして、厚狭地区複合施設と青年の家体育館の 2 か所、開業医はここに記載してある 24 医療機関に、現在は植生のはらだクリニックが加わり、そして、6 月からは早川内科医院が加わり 26 医療機関となる予定です。公的病院及び集団接種会場の日時につきましては 4 ページを御覧ください。こちらに詳しい日時等を記載しておりますので御参照ください。資料 1 ページにお戻りください。次に予約受付状況です。資料は 5 月 25 日時点の状況ですが、公的 3 病院に関しましては、時にはキャンセルで予約空きが出るものの、7 月末まで予約が埋まっている状況です。集団接種会場 2 か所におきましては、6 月後半の予約にまだ空きがある状況です。開業医での予約状況の詳細

はリアルタイムに変化しており、市で詳細を把握することは困難ですが、4月末から5月初めに実施したアンケート調査によると、回答を頂いた医療機関の予約概数合計が、その時点で約8,500件でした。次に、接種状況ですが、資料は令和3年5月24日現在の状況です。医療従事者が延べ4,397回、高齢者施設従事者が延べ478回です。65歳以上高齢者のみの速報値を口頭でお伝えさせていただきますと、今朝時点で、1回目の接種者が7,024人、2回目接種者が176人となり、1回目の接種率は32%を超したところです。説明は以上です。

高松秀樹委員長 執行部の説明が終わりましたので、委員の質疑を求めたいと思います。いろいろマスコミとか報道とかで言われていますけど、この際ですので、質疑したいことがあればお願いします。

吉永美子委員 以前、担当のコロナ対策室に「市民の中で宇部市にふだん掛かっている方というのはどうなんですか」と聞いたら、「山陽小野田市内の掛かり付け医でなくてもいいですよ」ということを言われました。ところがある病院で聞いたら、うちは掛かり付けじゃないから駄目ですよという病院もあったと聞いていまして、この辺の統一はどうなっていますか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 医療機関ごとの考え方もありますので、市のほうで一律に全ての方をというお願いはちょっとできておりません。掛かり付けの方を限定というよりは、先に掛かり付けの方を済ませてというような医療機関があるというのは耳にしております。

吉永美子委員 市民病院にたくさんの市民の方が入院されています。その中で、あるケースの場合、うちに接種券が届くじゃないですか。そして、家族が予約をしたときに、入院しているんだけど、今いっぱいですということがあったと。入院をしていれば、まずその方のいろんな情報というのはしっかり持っておられるはずだし、言われたのが、そのお宅は家族が

いるからいいけど、独り暮らしで入院を市民病院に仮にされていたら、お手紙が行っても誰もできませんよね。そうすると病院に入院しているにもかかわらず後回しにされたら、入院されている患者はどうなるのでしょうかという市民の声を頂いたんですが、現状はいかがでしょうか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 本市に公的3病院ということで3か所ありますが、いずれのところでも、今お伺いしたような話は若干耳にはしております。ただ、入院患者さんも長期の方から2日ぐらいの入院で済む方まで様々ということから、原則として、公的3病院の予約に関しましては、予約のシステムを使っていただくようお願いしているところです。

吉永美子委員 今言いましたように、おうちの状況というのは、その病院は分かるわけじゃないですか。おうちには誰もいないとか、そういったもうちょっときめ細かな、お手紙を送ったとしても、接種券を送っても誰も対応できないわけですよ。そういった方の場合というのはあり得ますよね、大いに。独居の高齢者というのはたくさんおられるわけですから、そういったケースとかというのは、要はそういったきめ細かな対応というのは、現実には時間的な制約とかいう中で難しいんですかね。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 長期に入院があるような病院、療養型の病院に関しましては病院と協力して、病院のほうから、そういうふうな細やかな対応はさせていただいているところです。急性期の病院に関しては、そのところは把握しておりません。

吉永美子委員 私に御相談があったケースは、長期入院されているケースでした。それで今いっぱいですよと言われましたということだったので、長く入院されているのに、それがちょっと、初めてのケースですから大変でしょうけど、もう少しきめ細かなことができないのかなと。その方の場合は子どもがいるので、まだ対応ができるけど、その方が心配されていたのは、高齢者で独り暮らしだったら手紙はそのままだよという、

病院で対応してくれなかったら、病院が分かっていたら、この方は打ったということできちんとできるけど、そこは子どもさんがいるからいいんだけど、そういうことをちょっと心配をされておられましたので、届けさせていただいています。そして、市によっては、集団接種会場にバスを出すとか、移動自体が難しい方もたくさんおられますけれども、そういった移動支援を山陽小野田市は検討されなかったのでしょうか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 移動に関しましてはかなり早いうちから検討の事項には入っておりました。ただ、先ほど申しましたように、現在、開業の先生方が26医療機関、各校区に1か所はお願いできている状況ということで、現時点では送迎等というのは考えておりません。

吉永美子委員 資料を頂いた中で2番目です。小野田赤十字病院、山口労災病院、山陽小野田市民病院とも、7月末まで予約空きなしとなっておりますが、今の高齢者で7月末まで2回打つという予定で山陽小野田市は動いていると認識しています。7月末まで予約空きなしで、その3病院がなっているとしても、7月末で一応2回、高齢者の方は終わると思っていてよろしいですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 集団接種会場にまだかなりの空きがあります。それと開業医の先生方のところに、かなりの予約が入っておりますので、これらを合算すれば、7月末には希望される高齢者の接種は終わる見込みです。

宮本政志委員 65歳以上、一応予定では7月末をめどにということをお聞きして、そうすると、64歳以下の市民の方々に関しては、当然終わってからのことになるとは思いますけど、8月以降を考えておられるということですか。ワクチンがあればですけどね。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 64歳以下の方に関しましては、来月ぐらい

に接種券の発送ができるように準備をしているところです。ただ、予約に関しましては、若干ちょっと遅くにはなります。ただ、本市の場合、開業の先生が多くいらっしゃいますので、もし開業の先生で、例えば65歳以上の方の予約がなくなったよというところが出れば、そういった医療機関には、ある程度早く接種を開始していただけるような形で、計画を立てているところです。

宮本政志委員 それに関して、次にお聞きしようと思ったのが、この資料の2ページで26件のお医者さんですが、これは全員、医師会の方というふうに解釈していいんですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 医師会に入られていない医療機関も含まれております。

宮本政志委員 市内で病院、医療機関が何件あって、そのうち26件となりますが、全部で何件になりますか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 外科とか産婦人科とか全て入れた医療機関登録数を記憶しておりませんが、たしか50台だったと思います。内科の先生方はほとんど登録していただいているのではないかと思います。

宮本政志委員 確かに先日もニュース等で山口県が全国で2番目にワクチンの接種率が高いと報道されていきました。県内でも、この数字見ると本市は進んでいると思うんですよ。ただ、65歳以上の方がほぼ終わられて、64歳以下に入ると当然人口は多いですね。今の接種の現状で、今までのこの数日間で、何か大きな課題というのは見えていますか。例えば人が余りにも並んで、問診に時間が掛かっている。問診前の事務手続に時間が掛かっているとか、何か課題が見えていたら、その課題を次に接種人口が増えてくるわけですから、改善しないといけませんから、何か問題点というのはありますか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 現在、実施しての課題というよりは、医師会の先生方とも協議をしておりますが、若い年代層になると、今度は勤務をされている方、働かれていらっしゃる方が増えますので、そういう方が受けやすい体制をどうやって作っていかうかという辺りを課題として協議を行っているところです。

宮本政志委員 もう一つテレビ等で言っていますが、接種会場の職員の方とか、医療従事者に先行して接種をしていると思うんですけど、直接、接種会場で従事している職員の方とかに余ったワクチンをというふうによくマスコミが言っていますが、別に余らなくても、感染防止のために打っていくということは考えてないですか。私は打っていったほうが良いと思っているんですけど。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 まず集団接種会場で従事していただく中の医療従事者、医師、看護師ですが、この方に関しましては、もうワクチンの接種は済んでいる状況です。余剰対策も同時に行っておりますが、結局、余剰ではあるんですけども、その優先枠に高齢者施設等の従事者と集団接種の従事者をリスト化しているところです。

宮本政志委員 余剰は多分ほとんど出ないと思うですよ。別に余剰ワクチンがなくても、法律的にもし駄目というなら別ですけど、やっぱり感染リスクが高いじゃないですか。あるいは消防隊の方とかいった方々を優先的に打っても、そんなに批判が出ると私は思っていないし、打つべきと思っているので、そういった計画というのは今後立てられませんか。余ったワクチンという意味じゃなくて。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 ありがとうございます。その辺は今後検討していきたいと思います。ただ、消防隊員に関しましては、ほとんどの方が1回目の接種は済んでいるというふうに伺っております。

水津治委員 コールセンターのことをお尋ねしたいんですが、つながらないということはずっと聞いておりまして、近頃の様子はどうでしょうか。

河田新型コロナ対策室長 コールセンターですけれども、御質問ありましたように予約の受付を開始しました当初、本当につながりにくい状況で大変御迷惑をお掛けしております。予約の開始当日の朝一番、8時半ですけれども、この時間帯がすごくつながりにくいという状態でした。ですが、日を追うごとに、例えば先週の金曜日ですと90%以上お電話をお受けすることができるようになっておりますので、現段階では落ち着いておるかなというふうに考えております。

水津治委員 高齢者の方、65歳以上の方が済んだときに、それ以外の方の人数が多いわけです。以前、回線も多ければ増やしていかなければいけないというふうに説明があったと思うんです。65歳以上の方は落ち着いてきたんですけど、次の段階があるわけです。これについて、今のところ何か対応というのは考えておられますか。

河田新型コロナ対策室長 回線の増設に向けては鋭意努力しているところですが、全国的にワクチン接種の予約ということで、人材面とか施設面でなかなか思うように確保ができていないという状況です。やはり人口が増えます64歳以下の方を対象とする場合には、ある程度段階ごとに優先予約の時期を設けまして、時期をずらして予約を受けるということで回避ができないかなということで調整しているところです。

藤岡修美委員 ワクチンの振分け数というか、市内の各病院あるいは集団接種会場があると思うんですが、どのような基準で振り分けられていますか。

河田新型コロナ対策室長 それぞれの接種会場とか医療機関で接種いただけるキャパシティに応じて御要望を頂いております、幸いに必要数を要

望しますと十分な数の供給を受けている状況です。

伊場勇委員 先ほど余ったワクチンの件があったんですけども、これまで接種してきて、どれくらい余ったのがあったのかとか、分かれば教えてほしいなと思います。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 私が記憶しているのは集団接種会場だけですが、1回当たり一番多いときで結果的に6、少ないときにはゼロ、1、2というところですよ。

伊場勇委員 余ったやつはどうされたんですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 本市におきましては、余剰対策として慌てないように、余剰待機リストを作成しております。登録者が、一つは高齢者、障害者施設のサービス提供従事者の方、それと集団接種の会場の従事者。これらを順番に登録しておりますので、余剰が出る度に連絡して、来ていただける方に来ていただいて、接種しているという状況です。

伊場勇委員 無駄なく使っていただきたいと思ったので、良いやり方だと思います。ウェブ予約をされた方の声を聞くと、やっぱり「すぐできた」、「早くできた」と言われるんですが、65歳以上なので、使える方も少なかったかなと思うんです。どれくらいの方がウェブで予約されたのか教えてください。

河田新型コロナ対策室長 ウェブ予約とコールセンターの電話の予約の比率ですけれども、最新の情報で把握しております数値ですと、6割程度の方がウェブの予約だと思っております。要因を分析しますと、御家族の方とか、お知り合いの方が代わりに操作をしているというふうに分っております。

松尾数則委員 いろいろお話を聞いている中で、集団接種が8,500件ぐらい予約、そして高齢者の数が2万1,800人という数なんです。つまり、ほとんどが開業医でやられているというふうに見ていいんじゃないかという気がするんですが、先ほどおっしゃったワクチンの数、そして開業医の予約者の数、その辺のマッチングはどこが責任を持って管理をしているんですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 うちで管理しています。

松尾数則委員 開業医がちょっと心配されていたんですが、予約がなかなかできないということがあって、例えば2か所で予約した人もいるんじゃないかという話があったんです。そういう状況はありませんでしたでしょうか。

河田新型コロナ対策室長 中にはそういう懸念があるのではないかというふうに心配した開業医の先生からも連絡がありますけれども、うちのほうでは二重予約ということで、当日急にキャンセルされたとかいう事例は、まだ今のところ実際に発生はしておりません。

水津治委員 1ページの3の接種状況の上から2番目、高齢者福祉従事者の数字のところなんです、これには福祉事業者の従事者と、もう一つには、居宅介護支援事業所、地域包括サブセンター、施設ではない職員が、高齢者に関わる人が従事者におられますね。これについては、この中に入っていますか。どうですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 入っておりません。この高齢者施設従事者と言いますのは、本来は高齢者が優先接種の対象ですが、高齢者の入所施設に従事する方は、同時に打ってもいいですよというのがあります。そのときに打たれた数です。

水津治委員 本市ではそういった高齢者と関わる事業所の職員は、この施設の職員と同等の扱いにしないということを決めておられるということですね。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 本市というよりは、国の手引ではこのようになっております。

宮本政志委員 今からになるでしょうけど、医師会と別に、例えば薬剤師会とか歯科医師会とか、あるいは救急救命士とか、あるいは臨床検査技師、こういった方々も活用してということがうたわれていますよね。こういう方向性というのでも検討されていきますか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 現時点におきましては、在宅の看護師等も含めて、集団接種会場で対応していただいている医療従事者は足りております。もし今後、方向性を拡大していくという中で、必要があればということになるかと思えます。

吉永美子委員 6月中旬から予約券が発送される。およそ3万4,000人残っているんですね。16歳以上64歳以下ですかね。どのように年齢の区切りをしたほうがいいなって、よその自治体もやっているところもあるし、それがいいなと思ったんですけど、どのように考えておられるんですか。年齢の高い順からが一番いいのか、若い人を先に打つのかとかいうのは、その辺をどう考えておられるんですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 これも国の手引に示されておりますが、次の優先順位の高い方が基礎疾患を有する方、先ほど言われました在宅とかも含めて高齢者施設に従事をされる方、それと60歳から64歳の方、この方々を第1優先期間の予約者とする予定です。第2段階としましては、今度は年齢で一旦区切って、現時点では50歳ぐらいで区切ろうかなということで考えております。

吉永美子委員 やはりなかなか病院に行って打つということ自体が大変な方は、訪問でのワクチンもあるというふうに委員会の中でお話があったと思うんですが、現状そういった要請には、医師が対応していただくように、きちんとできているのかどうか。また、実績としてあるのかどうか、お知らせください。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 実績としてはつかんでおりませんが、全ての往診等を行われる医師に対して、往診によるワクチン接種が可能であることと、対象者がいらっしゃれば対応をお願いしますということの依頼は済ませております。

吉永美子委員 基本的にはなかなか出掛けるのが難しくて、家でという方の要望には100%応えられると思ってよろしいですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 そのように考えております。

山田伸幸副委員長 集団接種は医師会の先生方が対応されていると思うんですけど、大体集団接種は何名体制で、それに付随するスタッフはどれぐらい出ておられるのでしょうか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 現在、規模にもよりますが平均して、医師が3名、看護師が5名から6名、その他事務員、その事務員の中に市の保健師だとか看護職も含めてになります、23名から26名の間で執務しております。

山田伸幸副委員長 引き続き集団接種が中心になるという考え方でいくのでしょうか、若い人たちに接種する場合も。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 中心かどうか分かりませんが、集団接種もあ

る一定の時期までは継続する予定としております。

山田伸幸副委員長 全国の進んだ県でいうと、開業医が積極的にやられているというのを昨日ちょうど目にしました。集団接種との併用というのは、開業医の皆さんにとってちょっと負担になるんじゃないかなという思いがあるんですけど、その辺は何か話をされましたか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 医師会の先生方とはいろいろな協議をさせていただいているところですが、どうしても、御自分の医療機関での接種が忙しいという方に関しましては、集団接種には参加していただいておりますし、あくまでも協力できるという先生方をお願いをしているところです。

山田伸幸副委員長 山陽小野田市では、医師免許を持っておられる方が注射を打っておられるということによろしいのでしょうか。よそでは違う方も、歯科とか、救急救命士なんかもそれ当たろうじゃないかとかいうふうな話も出ておりますけれど、山陽小野田市については、医師が注射をしているというふうに考えてよろしいですか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 山陽小野田市では医師は問診に当たり、接種は看護師がしております。これに関しましては、ワクチン接種を開始する前に市内の公的3病院だとか、開業の先生等としっかり協議をした結果、このような対応をしております。

高松秀樹委員長 ワクチン接種が順次進んでおるんですが、重大な副反応について何かありますか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 本市においては、現時点で重大な副反応の報告は受けておりません。

高松秀樹委員長 つまり会場で15分とか待機しておる間に、そういう救急搬送されるようなことはないということですよね。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 そのとおりです。

山田伸幸副委員長 まだ忙しくてなかなかできないかもしれませんが、接種券を送ったけれど、何のアクションもない。要するに自分で申込みができていない人の把握というのはどうなっているのでしょうか。

尾山福祉部次長兼健康増進課長 現時点でその方の把握というのはできておりません。あくまでも任意接種ですので、御本人の意思で受けられないのか、情報がなくて受けられないのかというのが分かりませんので、全件を把握する予定はありませんが、ただ、情報がうまく伝わってなくて、受けられなかったという方がいてはいけないと考えておりますので、そういうふうな情報を得にくい方、例えば高齢者の方とか障害のある方に対しましては、例えばケアマネジャーだとか、障害の相談員、あと民生委員等の力をお借りしながら、情報提供はしていきたいというふうに考えております。

山田伸幸副委員長 送られてくる情報を情報として認識しにくい方の把握というのはできているんですか。

河田新型コロナ対策室長 視覚ですとか聴覚ですとか障害をお持ちの方につきましては、障害福祉課と連携しまして、一人ずつ個別に対応していただくようお願いしております。

山田伸幸副委員長 実際に個別の対応ができていますか。

河田新型コロナ対策室長 障害福祉課の職員が直接ということもありますし、事業所の方をお願いしてということもありますけれども、当たっていた

だくようにお願いしております。

高松秀樹委員長 コールセンターの質疑がありましたけど、コールセンターでうちの市は何回線契約しているんですか。

河田新型コロナ対策室長 7回線をお願いしております。

高松秀樹委員長 7回線は山陽小野田市の専用であるということですよ。コールセンターに関わる経費は幾らだったですか。

林健康増進課主査兼健康管理係長 コールセンターの委託事業費ですけど、全体で6,376万4,250円になっております。

高松秀樹委員長 イメージを教えてくださいんですけど、コールセンターは県外にあるということだったですよ。そのコールセンターというのは、ほかの自治体も同じ場所でやり取りできるようなところなんですか。それとも一つのところで、山陽小野田市だけで、7回線でやっているんですか。

河田新型コロナ対策室長 セキュリティーの保たれた大きな建物があるというふうにイメージしていただきまして、その中に山陽小野田市専用のブースを設けまして、7回線も別に用意していただいております。

吉永美子委員 県内でも他市によっては、ナビダイヤルを使わないという形を選択されているところもあると思うんですが、県内の状況をお知らせいただけるとありがたいです。

河田新型コロナ対策室長 私が把握しております状況ですと、約半数ぐらいがナビダイヤルを使っておられるかなというふうに把握しております。

吉永美子委員 何が言いたいかというと、どちらが市民にとって助かるのかという点なんです。半数がということは、半分は使っていないと。私が調べたときは萩市とかも「0570」ではなかったというふうに思っていて、先日お聞きすると、宇部市は10回線に対して山陽小野田市はナビダイヤルを7回線持っているということで、大変努力されていると思うんです。現実には掛かったときには、お金が結構掛かります。やはり費用という部分も、市民の負担というのも少し考えないといけない部分もあるんですが、逆に「0570」を使っていない、市内のダイヤルを使っておられるのはなぜなのかというのは調査されていますか。

河田新型コロナ対策室長 そこまでの調査には至っておりません。

山田伸幸副委員長 コールセンターの件なんですけど、最初にガイダンスが流れるんですよね、「何秒で幾らです」という。これを聞いた瞬間に、つながらなかったと思って諦めて切られる方がおられるというのを聞きました。最初に人が出て対応するというふうにはならないんですかね。

河田新型コロナ対策室長 こちらも調整なり交渉なりをしてまいりましたけれども、ナビダイヤルの性質上、最初に金額をお伝えするというガイダンスが必ず入ってしまうということで、こちらにつきましては外すことができないということになっておりますので、広報等で周知に努めてまいりたいと思っております。

山田伸幸副委員長 ウェブを使った予約にして、先日ちょっとチャレンジしてみたんですけど、非常に難しいですね。これは簡略化できないんでしょうか。

河田新型コロナ対策室長 難しいと感じられる点が、メールを一度登録していただいて、そこに返信して、それから予約に進めるというような仕組みであろうかと思うんですけれども、なりすましですとか、架空の接種券

番号で予約できてしまうというようなセキュリティーの問題もありますので、正しい方に御予約していただきたいということで、こういう形を取らせていただいております。

山田伸幸副委員長 個別番号の頭にゼロ四つを並べるとか、あれは本当にじっくり読んだ上でないとなかなか分かりにくい仕組みになっていると思うんですよね。その辺も分かりやすく表示していかないと、私自身もあれで引っ掛かった者の一人ですので、どうかなと思うんですけれど、何か改善されないですか。

河田新型コロナ対策室長 なかなか接種券の発行段階と予約システムの使用を確定する時期とで差がありまして、操作上御迷惑をお掛けしておりますけれども、64歳以下の方にお送りします際には、接種券番号としましてゼロを全て付けて、お送りをしてしております。若干読みづらくなりますけれども、予約をしていただく際に、そのとおりのゼロを付けて入れていただくようになりますので、混乱が防げるかなということで対応してまいりたいと思っております。

高松秀樹委員長 よろしいですか。（「はい」と呼ぶ者あり）以上で新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を散会します。

午後2時20分 散会

令和3年5月31日

新型コロナウイルス感染症対策特別委員長 高松秀樹